

「研究データ利活用協議会」令和7年度の活動総括

令和8年3月31日
研究データ利活用協議会

令和7年度は、令和6年度に引き続き以下の3つの方針を掲げ活動を行った。

【「研究データ利活用協議会」令和7年度の活動方針】

- ① 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
- ② 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
- ③ 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

この方針を受けて、具体的には次の活動を行った。

1. 関係者間のネットワークを構築・強化するための場の醸成

(1) 公開イベントの開催

- ・ RDUF 公開シンポジウムを令和7年12月12日（金）に実施した。

(2) 情報共有やディスカッション

- ・ 企画委員会
 - 令和7年度第1回 RDUF 企画委員会（令和7年6月2日）では、RDUF のプレゼンス向上のための広報活動や、今後の小委員会活動について議論した。また2025年度の公開シンポジウムについて計画の方向性を定めた。
 - 令和7年度第2回 RDUF 企画委員会（令和7年9月29日）では、公開シンポジウムについて実行委員会の企画案への承認や議論を行った。また、研究データ利活用に関する相談窓口の設置や、小委員会活動を活発化するための企画案について意見交換を行った。
- ・ メーリングリストを活用し、イベントの案内など会員に有益な情報を共有した。

表1. 「研究データ利活用協議会」メーリングリスト

| 種類 | アドレス | 今年度活用実績 |
|------|-------------------------|---------|
| 情報共有 | rduf-share@mr.jst.go.jp | 66件 |

2. 小委員会の活動

小委員会は、会員の中で共通する課題をもった有志が集まり、課題解決に向けて意見交換をし、その成果を指針やガイドラインの形で世の中に提言して、研究データ利活用に資することを目的として設置されている。

令和7年度は新たに次の小委員会が設置され、活動を開始した。

- ① 政府メタデータ共通項目小委員会
- ② PID ユースケース検討小委員会

① 政府メタデータ共通項目小委員会

| | |
|----------|--|
| 委員長 | 未定 |
| 委員数 | 15 名 |
| 目的 | <p>2021 年 4 月に示された「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的 な考え方」では、公的資金により得られた研究データについて、産学官における幅広い 利活用を図るためのメタデータ整備が謳われている。合わせて、メタデータの共通項目 として 15 項目が示されており、研究データ基盤システム上での検索、及び EBPM (Evidence-based Policy Making) に活用する旨が示されている。さらに、本共通項目 の入力を支援するガイドライン策定なども関係省庁リードのもと進められている。一方で、本共通項目は研究者によって入力されることが想定されているものの、その 実践は進んでいない。その要因は複数想定されるが、本共通項目自体に起因するものとして、実際にメタデータを作成する研究者の視点から設計がなされていない点が挙げられる。この問題に取り組むため、本小委員会では分野の研究者自身が共通項目をレビューすることによって、各組織/支援部署によってカバーされる項目、システム等によってカバーされる項目、研究者自身が入力すべき項目を整理する。また、FAIR 原則を 始めとする国際標準に準拠したメタデータの在り方を議論し、国際的な流通性が拡大するよう、対応する項目の精緻化等の検討を進める。さらに、メタデータ項目の設定と いう枠組みの在り方についても模索を広げることで、将来の研究コミュニティでの活 用や政府方針への一助となる成果物を目指す。</p> |
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通項目に即したデータ登録上での課題や、問い合わせ事項の確認・共有 ・ 実例 (GakuNin RDM , JAIRO Cloud, 科研費電子申請システム, DMP 作成支援システム (金沢大学) , GRANTS Data, J-STAGE Data, 名古屋大学学術リポジトリ等) におけるデータ登録上の課題や、負担感の共有 ・ 既存 DMP を活用した入力負荷を低減するシステム構想の紹介 等 |
| 小委員会の開催等 | <p>第 1 回：令和 7 年 9 月 10 日 第 2 回：令和 7 年 10 月 6 日 第 3 回：令和 7 年 11 月 10 日 第 4 回：令和 7 年 12 月 2 日 第 5 回：令和 8 年 1 月 26 日</p> |

② PID ユースケース検討小委員会

| | |
|-----|----|
| 委員長 | 未定 |
|-----|----|

| | |
|----------|--|
| 委員数 | 10名 |
| 目的 | 研究成果物、研究者、研究費、研究機関などに ID を付与し、突合可能なデータを整備することで研究活動の分析に役立てる試みが進んでいる。近年、この取り組みを国際的な文脈で実践するため、永続識別子 (PID) を用いたデータ統合と分析の試みが始まっている。日本においても、2024 年 11 月に示された「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」では、PID の整備による研究活動とその貢献の可視化について言及されており、「あらゆるアイテムやそれを取りまとめたものに PID を付与し、ネットワーク化することで、一定の信頼性の下、研究と知識生産の姿を多面的に捉えることができる」とされる。この取り組みを戦略的に行うためには、国レベルで PID に関する戦略を策定し、分析対象として適切な PID の選定、導入までのロードマップ策定などを進める必要がある。しかしながら、PID は研究エンティティごとに整備のモチベーションが異なっており、足並みを揃えるのは容易でない。そこで本小委員会では、国際的な PID データ利活用の具体的なユースケースづくりを目的として、大学の研究評価における実務を題材に、書誌レコード/著者名/機関名に関する各 PID のメタデータ品質を分析する。その他、助成金/装置などの PID についても、参加者の関心に応じてメタデータ品質を分析する。さらに、分析結果をもとにした各 PID の使用方法と実務的なメリットを整理し、報告書としてまとめる。 |
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各機関での業務・ユースケース分析 ・ PID に紐づくメタデータの品質調査 |
| 小委員会の開催等 | 第 1 回：令和 7 年 11 月 13 日 第 2 回：令和 7 年 11 月 27 日 第 3 回：令和 8 年 1 月 16 日 |

3. 部会の活動

オープンサイエンスの実現と拡大に資するため、小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を長期的、継続的に行うこと等を目的として、RDUF 企画委員会の下に部会を設置できることとしている。

令和 7 年度は昨年度に引き続き次の部会が活動した。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① データ共有・公開制度検討部会 ② ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会 (JDARN) |
|--|

① データ共有・公開制度検討部会

| | |
|------|---|
| 委員長 | 南山 泰之 (東京大学 社会科学研究所) |
| 委員数 | 12 名 |
| 目的 | 「RDUF 研究データライセンス小委員会」による活動の継承と展開。 |
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「研究データの公開・利用条件指定ガイドライン」の広報活動及び点検・更新 |

| | |
|-------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連動向の情報共有（ML のほか、不定期での会合を想定） ・ 他の活動体との連携（例：データ流通推進協議会、デジタルアーカイブ学会 法制度部会など） ・ 研究データ利活用に関わる法的・制度的課題に関する論点の検討、体制整備支援 ・ 上記成果物に関連した学会・セミナー発表 ・ 政策提言を見据えたドキュメンテーション作成 等 |
| 部会開催等 | 第1回：令和7年12月3日 |

② ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会（JDARN）

| | |
|-------|--|
| 委員長 | 八塚 茂 （製品評価技術基盤機構） |
| 委員数 | 25名 |
| 目的 | <p>JDARN は、2017 年から 2020 年にわたり RDUF 小委員会として活動してきたが、本部会はその活動の継承及び展開を目的とする。具体的には下記の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準に高めるための活動（リポジトリガイドライン等）を行う。 2. データリポジトリへの要求の多様化に対応して、共通の課題を議論する。 3. データリポジトリ関係者のコミュニティを形成する。 |
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティング・勉強会・セミナーの開催（不定期） ・ 勉強会・セミナー・調査等で得られた知見に基づく調査報告書の作成（年1回） ・ RDUF 総会・公開シンポジウム、JOSS などオープンサイエンス関連イベントへの参加 |
| 部会開催等 | - |

4. その他

会員の状況

- ・ 機関会員：8機関
- ・ 個人会員：209名
 - 令和7年度新規入会：22名
 - 令和7年度退会：0名

－ 以 上 －